

開講年度	令和6年度	開講課程	博士後期課程
授業名	器官病態内科学特別研究		
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～3年次
必修・選択の別	選択	単位	10単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	(糖尿病・内分泌代謝内科学) 糖尿病、膵β細胞障害 (呼吸器内科学) 呼吸器疾患 (循環器内科学) 循環器内科診断学 (腎臓・体内環境調節内科学) 慢性腎臓病 (リウマチ・膠原病科学) 全身性自己免疫疾患、自己抗体		
担当教員 (下線：科目責任者)	医	(糖尿病・内分泌代謝内科学) 教授 松岡孝昭、講師 森田修平 (呼吸器内科学) 教授 <u>山本信之</u> 、准教授 中西正典、講師 早田敦志 (循環器内科学) 教授 田中 篤、准教授 北端宏規、講師 黒井章央、講師 塩野泰紹、講師 山野貴司、講師 尾崎雄一、助教 太田慎吾、助教 樽谷 玲 (腎臓・体内環境調節内科学) 教授 荒木信一 (リウマチ・膠原病科学) 教授 藤井隆夫、准教授 岩田 慈	
	薬		
授業の概要	糖尿病・内分泌代謝内科学、呼吸器内科学、循環器内科学、腎臓・体内環境調節内科学、リウマチ・膠原病科学の各分野において博士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、日々の臨床活動において抱える高度先進医療・地域保健医療の課題解決に向けた研究を実施し、研究成果を発信して社会貢献できる研究能力を身につけるとともに、臨床技能の向上を図る。		
到達目標	(糖尿病・内分泌代謝内科学) 糖尿病発症に関わる新知見を修得する。 (呼吸器内科学) 呼吸器疾患に関する課題解決のための臨床研究、基礎研究を実践することができる。 (循環器内科学) 循環器内科学における最新の光干渉断層法に関する技術を理解し、その活用法について修得する。 (腎臓・体内環境調節内科学) 慢性腎臓病・透析医療の臨床課題解決のための研究を立案・実施できる技能を修得する。 (リウマチ・膠原病科学) 全身性自己免疫疾患における自己抗体・抗核抗体の臨床的意義を広く社会に発信できる。		

授業計画	<p>(糖尿病・内分泌代謝内科学) 糖尿病発症に関わる分子メカニズムの解析に関する研究指導を行う。(松岡孝昭/森田修平)</p> <p>(呼吸器内科学) 呼吸器疾患に関する臨床研究等についてその実施方法の指導を行う。(山本信之/中西正典/早田敦志)</p> <p>(循環器内科学) 循環器疾患に関するイメージングを用いた診断法、圧・流速ワイヤーを用いた生理学的診断法を用いた研究を指導し、論文作成を行う。(田中 篤/北端宏規/黒井章央/塩野泰紹/山野貴司/太田慎吾/尾崎雄一/樽谷 玲)</p> <p>(腎臓・体内環境調節内科学) 慢性腎臓病の克服を目指した新たな治療戦略の構築に係る研究を指導する。(荒木信一)</p> <p>(リウマチ・膠原病科学) 学会発表や他の研究者とのディスカッションを通じて、自身の研究をさらにブラッシュアップできるような授業内容とする。また研究の問題点を明確にした上で、社会に還元できる部分を抽出する。また論文作成の指導を行う。(藤井隆夫/岩田 慈)</p>
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100% (研究課題の設定内容、研究の遂行状況) によりS (90点以上)、A (80～89点)、B (70～79点)、C (60～69点)、D (59点以下) の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー (学生からの質問事項等への対応)	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	<p>(糖尿病・内分泌代謝内科学) 特に指定しない。</p> <p>(呼吸器内科学) 特に指定しない。</p> <p>(循環器内科学) 特に指定しない。</p> <p>(腎臓・体内環境調節内科学) 特に指定しない。</p> <p>(リウマチ・膠原病科学) 特に指定しない。</p>